別紙

１　活動名　小田原市：中核市への移行に対する検討について
内閣府：まち・ひと・しごと創生本部について
日本科学未来館：施設の概要と運営について

２　調査の目的

(1) 本市における課題

松本市では、中核市移行を目指し検討が進んでいる。その中で中核市移行の必要性や財政への影響などが市民へ説明不足と考えられる。また、教育文化センター建て替えが検討されているがこれも市民へ説明不足と考えられる。

(2) 調査の必要性

中核市移行のメリット、デメリットを明確にし、中核市移行断念となった自治体への聞き取りも必要である。また国の地方創生施策が進む中で、施策の中で中核市がどのように位置づけられているのかを把握する必要がある。

日本の最先端の科学館を調査体験し、教育文化センターの機能と規模のあるべき姿、将来を担う子どもたちに夢と希望となる施設とはどのようなものなのかの把握

(3) 調査項目

中核市移行に対する検討、地方創生における中核市、最先端科学館の概要

３　調査地選定理由

(1) 小田原市

中核市移行が人口３０万人から２０万人へと要件が緩和され中核市移行への検討がされている中で、中核市移行を断念した数少ない市である

(2) 内閣府

国の地方創生施策が進む中で、総務省管轄である中核市や連携中枢都市圏構想の内閣府内での施策における位置づけ聞くため

(3) 日本科学未来館

日本国内で科学館としては最先端であるため

４　調査結果

(1)　実施日　　平成 30 年 5 月 10 日～5 月 11 日

(2)　出席者　　6 名　　青木豊子、芝山稔、上條温、青木崇、井口司朗、川久保文良

(3)　小田原市（平成 30 年 5 月 10 日）

平成 26 年度から中核市移行に係る調査検討を開始し、平成 27 年度には中核市移行推進本部を設置しメリットやデメリット、課題解決方法などの検討作業を行ったが、南足柄市との合併協議が不調に終わったこともあり中核市移行断念となった。その他の要因としては、保健所設置における独自性のある保健衛生行政の推進が可能なのかの懸念もあった。

(4)　内閣府（平成 30 年 5 月 11 日）

市長の中核市移行への検討に至った経緯の中で、地元出身の中央官庁の方から中核市となり松本独自の保健衛生行政、保健所の松本モデルを発信してほしいとの発言があったが、確認したところそのような発言ではなく、中核市となるなら松本市が独自に考え保健所運営をしなければ市民のみなさんのメリットとならないという趣旨であったと

確認できた。

(5) 日本科学未来館（平成 30 年 5 月 11 日）

日々の素朴な疑問となることや、最新テクノロジー、地球環境や宇宙、生命まで様々な分野が常設展示され、見学だけでなく体験することで子どもから大人までが楽しめる施設であった。

(6) 成果・所感等

中核市移行は松本の将来を決める重要な施策であると改めて感じた。中核市移行について市民のみなさんにその必要性、メリット、課題を明確に示す必要がある。特に松本独自の保健衛生行政がどのようなものなのか、保健所を単独で設置するのか、県と共同設置するのかなど焦らず気負わず検討すべきである。

教育文化センターの改築に関しては、中信地域唯一のプラネタリウム設置施設であり、交通アクセスなどの検討をすべきと考える。また、その施設規模、常設展示においても 2 度 3 度訪れたくなるものとすべきであり、子どもからお年寄りまでが楽しめる体験型の夢を抱くことのできる施設とすべきである。

５　政務活動費

(1)　使途項目　　調査旅費

(2)　支出額 176,900 円(日当 6000 円、宿泊費 14800 円、交通費 11650 円)×5 人
（日当 3000 円、宿泊費 0 円、交通費 11650 円)×1 人

―以　上―